



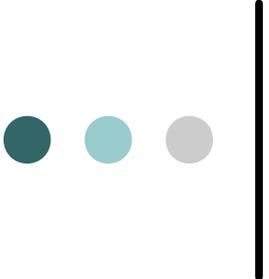
鹿児島県内の小規模事業場における過重労働及びメンタルヘルス対策の実態とその活動の支援策に関する調査研究

鹿児島産業保健推進センター

所 長 川元 孝久

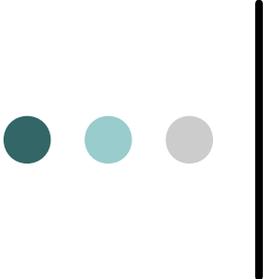
特別相談員 富永秀文

特別相談員 岡村 俊彦・他



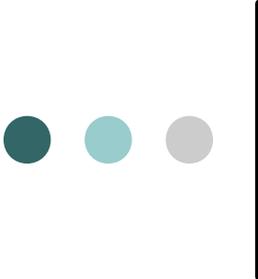
はじめに

- 地方においては小規模の事業場が多い（鹿児島県では労働者数50人未満の事業場が約97%）
- 小規模事業場における産業保健活動は低調である（平成15年度,16年度調査）
- 特に過重労働,メンタルヘルス対策などが問題となっている



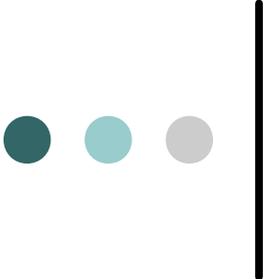
目的

- 小規模事業場におけるアンケート調査
 - 事業主に対しては過重労働, メンタルヘルス対策を中心に分析
 - 労働者に対しては過重労働, 疲労蓄積度(自覚症状)を中心に分析
- ↓ ↓
- 地域保健活動推進への資料作成



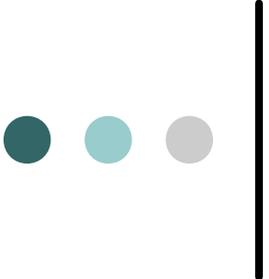
調査対象

- 鹿児島県内の従業員数50名未満の事業場、989件に事業主対象、労働者対象のアンケート用紙を配布。郵送により回収した384件から不備のあるものを除いた368事業場(事業主)を集計。
- 各事業場の労働者(5~6名)から回収し、不備のあるものを除いた1,806名分を集計。
- 調査期間は平成17年9月~10月



調査票（事業主向け）

- 基本項目（所在地，従業員数，業種）
- 勤務体制と時間外労働状況
- 従業員の健康状態
 - 病気療養従業者の有無
 - 過去1年間の病気による退職状況
- 事業所としての産業保健活動
- メンタルヘルス対策の実施状況



調査票（労働者向け）

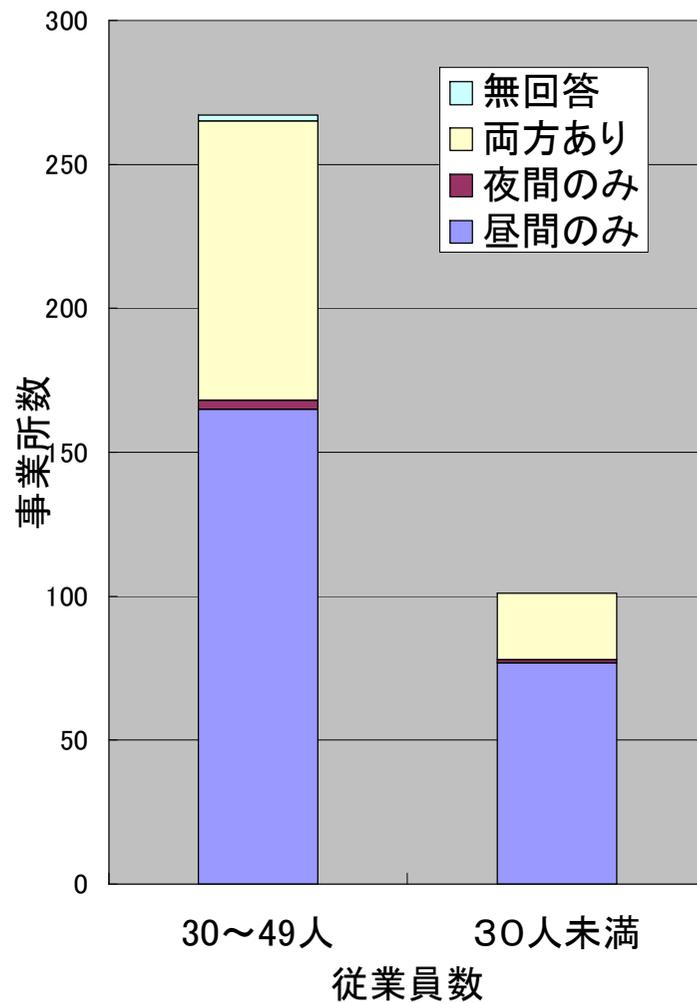
- 基本情報（性別，年代，勤務地）
- 健康状態
- 健康診断受診状況
- 睡眠時間
- 労働者の疲労蓄積度自己診断チェックリスト
→ 自覚症状と勤務状況を4段階で判定
（平成16年 厚生労働省作成）



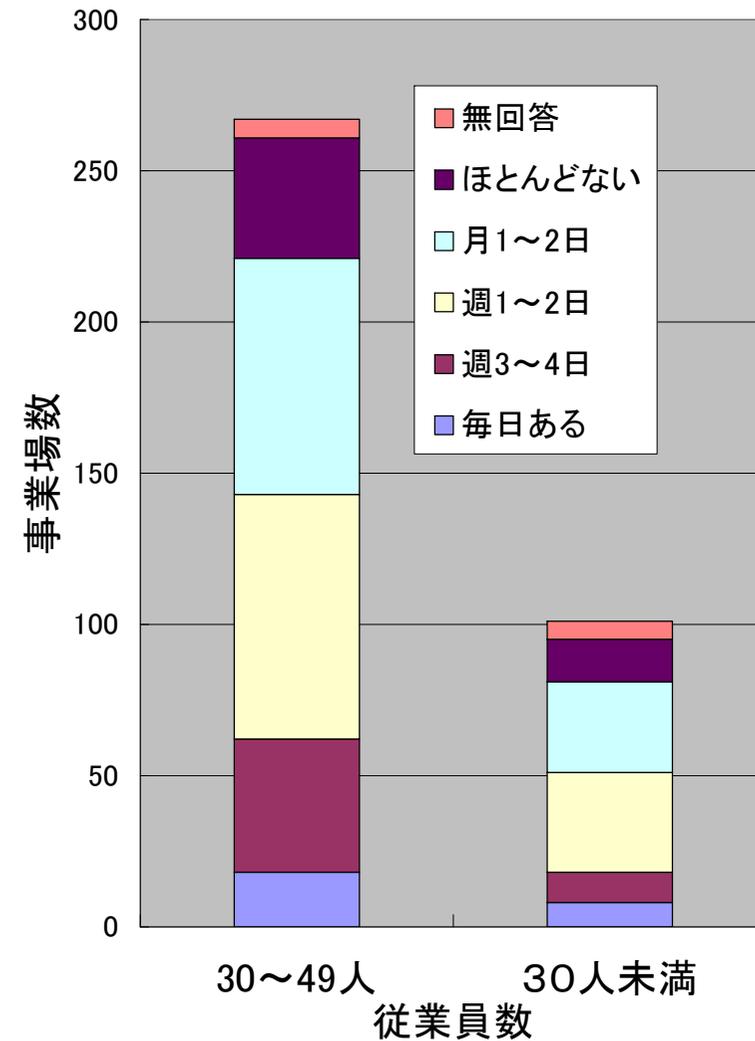
事業主向け調査結果

勤務形態と時間外労働

勤務形態



時間外労働



従業員 の 健康状態

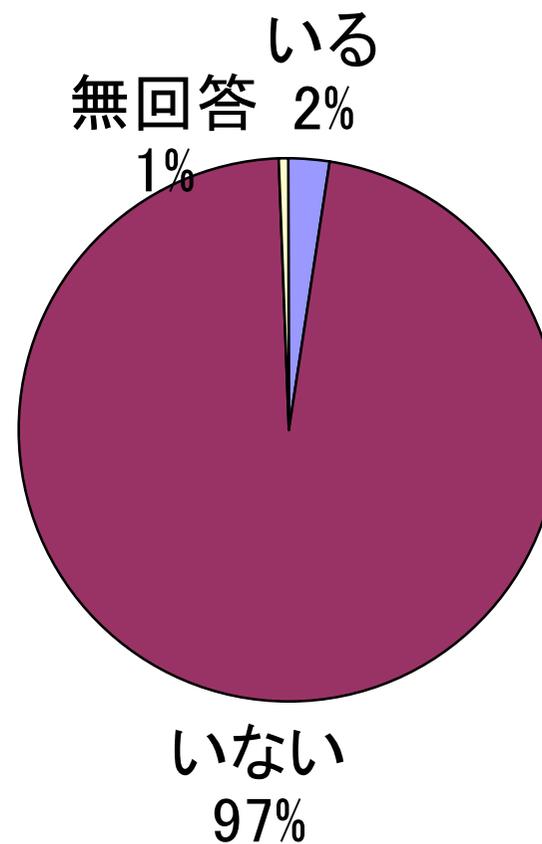
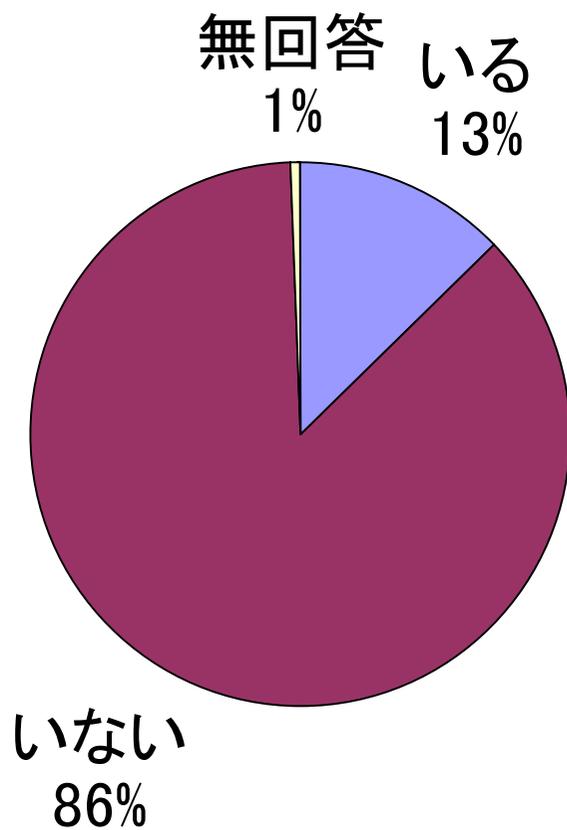
入院中の者がいる	一般の疾病	23件	6.3%
	生活習慣病	4件	1.1%
	心の病気	2件	0.5%
通院中の者がいる	一般の疾病	98件	26.6%
	生活習慣病	50件	13.6%
	心の病気	8件	2.2%
病院等で相談, 指導を受けている者がいる		36件	9.8%
皆, 元気に働いている		145件	39.4%
無回答		2件	0.5%

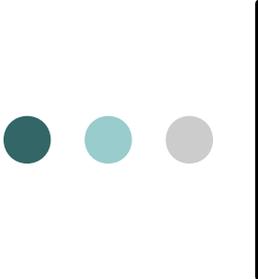


病気による退職

病気辞職者の有無

心の病気による辞職者の有無





メンタルヘルス対策の 実施状況

日、時間を決めて相談体制を設けている	3件	0.8%
日、時間は決めていないが相談体制はある	76件	20.7%
専門のスタッフが対応している	16件	4.3%
専門のスタッフはいないが、専門家の講話などを実施している	23件	6.3%
特にメンタルヘルス対策を実施していない	235件	63.9%
無回答	15件	4.1%



労働者向け調査結果

勤務形態と時間外労働

勤務形態



1日2時間以上の時間外労働





健康状態

病気療養中	123人	6.8%
病気がちで時々服薬	41人	2.3%
もともと身体が弱く不安	15人	0.8%
最近疲れやすい	667人	36.9%
元来元気で健康	954人	52.8%
無回答	6人	0.3%

健康診断受診状況と結果

受診状況

毎年受診	90.3%
2～3年前に 受診	6.6%
今までなし	2.4%
無回答	0.7%

健診結果

要治療	7.0%	
要精密	10.1%	
要 指 導	生活指導	5.5%
	食事指導	6.3%
	両方	6.5%
正常	59.6%	
無回答	5.0%	

自覚症状と睡眠時間

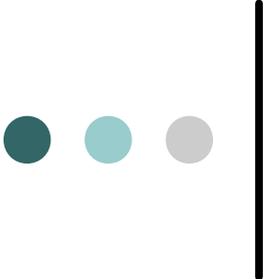
睡眠時間		不規則	6時間未満	6~8時間	8時間以上	無回答	計
自覚症状	I	13人 (10%)	83人 (23%)	486人 (38%)	28人 (57%)	2人	612人 (34%)
	II	54人 (42%)	131人 (36%)	441人 (35%)	16人 (33%)	0人	642人 (36%)
	III	42人 (33%)	123人 (34%)	277人 (22%)	5人 (10%)	1人	448人 (25%)
	IV	19人 (15%)	24人 (7%)	61人 (5%)	0人 (0%)	0人	104人 (6%)
計		128人	361人	1,265人	49人	3人	1806人

(カッコ内は睡眠時間区別内の割合)

自覚症状と勤務状態

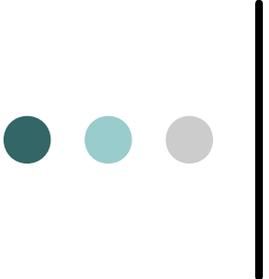
		勤務状況				計
		A	B	C	D	
自覚症状	I	439 (72%)	138 (23%)	182 (5%)	5 (1%)	612
	II	255 (40%)	252 (39%)	33 (17%)	29 (5%)	642
	III	102 (23%)	166 (37%)	50 (30%)	45 (10%)	448
	IV	14 (13%)	27 (26%)	32 (25%)	37 (36%)	104
計		810	583	297	116	1,806

(カッコ内は勤務状況区分内の割合)



まとめ1

- 33%の事業場で昼間，夜間両方の勤務形態
- 22%の事業場で2時間以上の時間外労働日が週3日以上
 - 過重労働の可能性が高い
- 事業主が把握している中で従業員のメンタルヘルス不
全はほとんどない
- 64%の事業場でメンタルヘルス対策を実施していない
 - 潜在的なメンタルヘルス不全があるが，事業主が認
知していない可能性がある



まとめ2

- 自覚的な健康状態は深刻ではない
- 毎年、健康診断を受診していない労働者が約10%
- 健診結果は40%が治療、検査、指導等が必要
→ いっそうの産業保健啓発が必要

- 勤務状況の負担が強いほど、自覚症状(疲労蓄積)状況が悪い
→ 事業主、労働者、産業保健活動関係者が一体となった対策が必要